



さんのみや たけし
三宮 武

国土交通省都市・地域整備局
下水道部 下水道企画課
下水道技術開発官

◆これまでの経歴は

下水道機構が設立された年である平成4年に建設省に入省しました。今年が入省からちょうど16年目です。これまで本省下水道部の他、中部地方建設局（中部地方整備局）、奈良県庁、福山市役所、日本下水道事業団に勤務しています。

◆現在の担当業務は

下水道技術開発官という名前の通り、下水道技術の研究、開発に関することが中心的な業務です。

その中でも、「下水道が保有する資源・エネルギーを活用・再生し、循環型社会の形成に貢献すること」が、日本の資源・エネルギー問題の緩和や地球温暖化対策に貢献することを意識して取り組んでいます。

◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

下水道機構とは、いろいろと仕事をさせていただきました。4年前、私が下水道企画課の課長補佐に在職していた時に、SPIRIT21の第二弾として、LOTUSプロジェクトの実施が決められたこと、いわゆる省エネ法に基づき、一定規模以上の下水処理場において、エネルギー使用の合理化の計画を作成するための手引き的な資料を作成したこと、下水道資源の有効利用に関する調査を行ったことなどが思い出されます。いずれも調査期限が短い状況で、いろいろと無理を申し上げましたが、的確に行っていただきました。

資源・エネルギー問題や地球環境問題などに対応するために、「下水道」が転換する必要に迫られています。下水道機構には、これまでに蓄積された技術的ノウハウを活かして、今後とも新技術の開発、普及に成果を上げ、下水道システムが「資源・エネルギーを活用・再生する循環型のシステム」へと変わっていくことに、力を発揮していただくことを期待します。



まつもと あきと
松本 明人

信州大学工学部
社会開発工学科 准教授

◆これまでの経歴は

下水道との出会いは東北大学大学院で松本順一郎先生の研究室に入門したとき以来です。当時、助手としていらした古米弘明先生の暖かくも厳しい指導を受けました。博士課程は野池達也先生の研究室で先生のご指導のもと、メタン発酵の研究を行いました。学位は「今後に期待して」との条件つきでなんとか授与していただきましたが、いまだに先生の期待に応えていないと感じております。

その後、三機工業株式会社に3年ほどお世話になりました。ちょうど嫌気性流動床のパイロットプラント運転というプロジェクトに係わることが出来ました。信州大学工学部には1993年4月に着任いたしました。途中、産学官連携を担う部署を経験し、現在にいたっております。

◆現在の担当業務は

大学では上下水道工学など環境関連科目の講義以外に、水理学の講義と演習を行っております。また来年度から食品関連企業の技術者を対象とした社会人修士生に廃水・廃棄物処理の講義と実験を行う予定です。研究に関しては下水汚泥のメタン発酵や好気性消化などが現在のテーマです。

◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

「消化ガスを燃料とする燃料電池システム」の実用化評価や「グリーン・スラッジ・エネルギー技術開発研究委員会」でメタン発酵関連技術の評価をさせていただいております。大村達夫委員長のもと、のびのびと「シロキサン」など実用化最前線の問題を勉強させていただいております。他の委員の方からの情報も大いに勉強になります。機構の活動趣旨とは違うかもしれませんが、委員会への参加は、若手研究者の育成や技術者との連携にも大いにつながるのではと感じております。



うめだ けんじ
梅田 賢治

(株)東芝 北海道支社
北海道制御システム技術課
主務

◆これまでの経歴は

平成7年に株式会社 東芝に入社し、それ以来、上下水道のシステムエンジニアリング部門に従事しています。下水分野では、下水プラントにおける電気設備のシステム技術を担当すると共に、雨水排水施設の運用を効果的に支援する降雨情報システムの導入にも携わってきました。

◆現在の担当業務は

現在は、北海道支社で上下水道分野のシステムエンジニアリングを担当しています。

北海道の下水道では、他都市と同様に浸水対策や合流改善対策が急務とされています。また、雪対策をはじめとした下水道施設や処理水の有効利用などのニーズに応じたシステム提供が求められます。

多様化するお客様のご要望に応じて、付加価値の高いシステムの提供を心がけて活動しています。

◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

「合流式下水道改善のためのリアルタイムコントロールシステムに関する研究」で、参画メーカーの幹事役としてお世話になりました。本研究では、実フィールドにおけるケーススタディで合流改善効果を検証した上で、計画手法、設計要領、維持管理などについて技術資料として取り纏めています。合流式下水道の改善対策については、今後とも取り組んでいかなければならない課題であることから、本技術資料がその一助になることを願っています。

これからも、下水道新技術推進機構殿との事業活動の経験を生かして、電機メーカーという立場から下水事業の発展に寄与すべく、エンジニアリング業務に従事していきたいと考えています。



くりはら ひでと
栗原 秀人

(財)下水道新技術推進機構
新技術研究所 所長

◆これまでの経歴は

昭和50年、建設省に入省以来、本省では下水道企画課、流域下水道課、河川局海岸室長、下水道事業課に、出先では北海道開発局札幌道路事務所、東北地建湯沢工事事務所、関東地建京浜工事事務所に、また公共団体では茨城県、山梨県、滋賀県に、下水道事業団では、東京支社、計画部、事業統括部に勤務しました。この間、下水道中心でしたが、道路、河川、ダム、砂防、都市計画等多くの分野を担当させていただきました。

◆これまでで思い出に残る仕事は

多くの思い出がありますが、一つは下水処理水循環利用モデル事業の創設、二条管方式やフレックスプランの展開など、公共団体の方々と一緒に、今までになかった事業手法や設計方法の導入等新たな取り組みに関わることができたことです。

多摩川、鶴見川等での多くの市民団体との交流もあります。川・水に対するそれぞれに異なった考えをお持ちの方々が多く集まる中、合意を得ながら協働していく、大変貴重な経験をさせていただきました。

◆今後の抱負をお聞かせください

下水道を取り巻く環境は大きく変わっており、下水道も新たな役割を担うべく、その機能を大きく転換していく必要があります。下水道機構ビジョンでも、「多くの主体（産・学・官に国民等）や関連する事業分野に下水道を橋渡ししていくこと、つまりクロスオーバーが下水道機構のミッションである。」としています。これまでの経験を活かしながら、こうしたクロスオーバーを実現できたらと考えています。